

知の融合をめざす 冒険者たち



文学部

NOW!

中央大学文学部の学生は、入学時より13の専攻に分かれて所属して、言語学や文学や文化、地域研究、歴史学、哲学、社会学、社会情報学、教育学、心理学などの専門分野を学びます。同時に、本格的な教養教育を受けることにより、変化する社会に柔軟に対応できる思考力を身につけ、行動に結びつけています。

外から見た文学部というものは、本を読むことが主な学修というイメージが強く、具体的に何をしているのかわかりにくいかもしれません。そこで2

社会の変化に柔軟に対応するための教養と 専門分野を学べるのが文学部の魅力

大田 今日はお二人からお話を伺えるのを楽しみにして来ました。まずはそれぞれの専攻を教えてください。

岡本 東洋史学専攻で主にイスラム史をやっています。卒論はオスマン朝をテーマにしたいと思っています。

岡堀 英語文学文化専攻です。大田先生のゼミで19世紀イギリス文学を学んでいます。

大田 文学部の学びの面白さに気づいたのはいつ頃ですか。

岡本 1年次では英語とドイツ語のほかにアラビア語も学びました。その他の専攻の授業でイスラムなど幅広い歴史も学び、多角的な物の見方があるというのを知って視野が広がりました。

大田 文学部では600を超える履修科目から選択できますから、それだけ専門領域を超えた幅広い知識を吸収・融合できる、ということですね。

岡本 はい。さらに2年次で履修した史学概論という授業では「歴史とは何か」ということを勉強するなかで、今

人の学生さんをお招きして、ご自身の経験からいまの文学部の学びの実状や魅力を語っていただきました。
(聞き手/大田美和教授)



大田 美和教授

の自分たちが過去からの歴史のなかで生きていることを自覚し、歴史を学ぶうえでも出来事の結果を覚えるだけではなく、そこに至る背景や事情を探ることが重要であるという認識を持つようになりました。

大田 それは文学部の学びのすべてに共通する一番大事なことです。岡堀さんはいかがですか。

巻頭特別座談会

岡堀 米谷郁子先生のイギリス文学特殊講義を受けて文学を学ぶ魅力を知りました。物語を追うだけでなく時代背景、作者が置かれていた環境を深く読み解くことを学び、文学を専門に学ぶことの意味と面白さや、多方面に応用ができることがわかりました。

大田 岡堀さんはサークルでESSに所属していたんですね。

岡堀 関東圏の他大学のESSの方と英語でディスカッションしたり、観光地に出かけて外国人に押しかけガイドをするという活動をやりました。授業では学術的な方法論を学び、サークルでコミュニケーション力や行動力を養うことができましたと思います。

岡本 行動という点では、私は授業で講演を聴いた版画家の河内成幸さんの展覧会や博物館に行くなど、現物に触れるために、意識しなくとも行動するようになりました。

大田 お二人とも多角的な視点から新しい発見を導くとか、語学や美術などの学びを行動に結びつけて体感として身につけるという、文学部ならではの学びの真髄を実践されてこられたということですね。

実社会での体験を重ねる実践的学びと 充実した支援制度で見えてくる将来の道

大田 お二人は、留学はされましたか。

岡堀 2年次に短期留学制度を利用しました。北イングランドのシェフィールド大学で4週間の寮生活をしてロンドン、スコットランドも行きました。

大田 どんな発見がありましたか。



岡堀 栞



岡本 多久実

コミュニケーションが取れるのが新鮮でした。ロンドンのシェイクスピア時代の劇場グロブ座の舞台裏ツアーにも参加できて、驚きの連続でした。

岡本 私は学外活動応援奨学金を利用してトルコに2回行き、1回目は発掘の実習、2回目はオスマン朝の多文化共存社会に関する実地調査を行いました。2回目はクレーダーが起きたので、3月にやっと実施できました。

大田 海外の体験は、将来を決めるうえでどう影響しましたか。

岡本 発掘を体験し、さらにイスタンブールに残る歴史的建造物を目の当たりにして、オスマン朝に対する興味が一層深くなりました。現在大学院への進学を決めています。この経験があったからこそです。

岡堀 4年間学んできた英語を生かしたいので、国際物流、貿易関係を考えて就職活動をしています。

大田 それだけの英語力は身につけることができましたということですね。

岡堀 はい。自信ができました。

大田 お二人とも学びの成果をしつかり将来につなげているということですね。最後に文学部でよかった、と思うことをまとめていただけますか。

岡本 いろいろな物事に対して、立ち止まって考える習慣が身についたことです。世間一般ではこう言われているけど、実際にはどういうところか根があるのだろうかとか、どういう背景事情があるのだろうかとか考えるようになりました。

岡堀 文学部の13の専攻を通してあら

ゆることが学べるのではないかと思えます。経済、法律、商学に関することでも、文学部で扱うテーマを通して学べるがあります。またそうした学びを支援してくれる環境や制度があり素晴らしい先生がそろっているのです。充実した学生生活になりました。

大田 まさにその通りですね。本日はありがとうございました。



おおた みわ
大田 美和(中)
聞き手 文学部 学部長補佐/文学部教授

おかほり しおり
岡堀 栞(右)
文学部人文社会学科英語文学文化専攻 4年
埼玉県立浦和第一女子高校出身

おかもと たくみ
岡本 多久実(左)
文学部人文社会学科東洋史学専攻 4年
私立駿台甲府高校 (山梨県) 出身

社会に生きる思考力と行動力を養う! 進化する学び

文学部の新しい

4

つの取り組み

実践型の
プログラム

領域を超えた
知の融合



CURRICULUM

13

専攻

現実社会における問題解決力や行動力を育てるために、文献の読解のみならず、社会と接点を持つ学びの機会を増やしています。海外の大学生との研究交流や、海外で働く卒業生から学ぶグローバル・スタディーズ、高校生の読書活動を活性化させるチューデント・ライブラリアン、専攻に限らない自分のテーマに専門の教授の指導を受けながら取り組む学外活動応援奨学金の活動など、やる気次第で選択できる実践型のプログラムが幅広く用意されています。

2 行動から生まれる リアルな発見

高校と大学の学びの違いは、あらゆるものを当然とみなさず、疑問を投げかけ、なぜ差別するのか、人間とは何かなどの本質的な疑問に正面から取り組んで、思考を深め、学問の世界の入口に立つということです。これは変化の著しい時代、AI（人工知能）の時代に、歴史的視野を持ち、新しい発想によって人類の未来を切り開くために必要なことでもあります。文学部では「ここが大学だ」と実感し、領域横断し、突破する力を育てます。

1 骨太の教養を身につけ、 専門を究める13専攻

3 出会いと創造の ブンカフェ



5月25日(木)に今年度最初のブンカフェが開催され、学生や教職員、市民が集い、映画や文学の中の図書館や図書館の未来を語り合いました。



<http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/news/2016/11/50197/>

ブンカフェとは、異分野の教員が一つのテーマで語り合う公開トークショーです。これまでに「女同士ならわかり合える?」「シアワセはどこにある?」「ここ、文学、心理学」などのテーマで開催しました。教員推薦の音楽や映画の話から意外な素顔が見えることもあり、和やかな雰囲気の中で、専門にこだわらず、領域を超えて学び合う喜びが実感できます。これこそ、文学部の学びなのです。

Topics 文学部の新しい4つの取り組み



フランス語文学文化専攻に 2コースが新設

「語学文学文化コース」と「美術史美術館コース」を設置。学ぶ内容と目的が明確になりました。



<http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/characteristic/subject03/>



総合教育科目が 新たなラインアップに

「宇宙論」「ジェンダー論」「入門・社会」等の科目を新設し、社会の変化に対応するための教養を磨きます。



<http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/guide/curriculum/>



グローバル・ソシオロジー・ プログラム (GSP) を開講

環境問題、貧困、格差など世界の問題について、社会学の方法で研究し、英語で発表する力を鍛えます。



<http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/characteristic/subject02/>



日本文化の神髄を学ぶ 実践的浮世絵講座

本物の浮世絵に触れ、専門家の指導を受け、学んだ成果を展覧会で発表。専攻を超えた仲間ができます。



<http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/characteristic/subject01/>

私の体験

My experience

文学部で発見した行動する学びの楽しさ

グローバル・スタディーズは海外での調査や研修活動を行い英語力、コミュニケーション力を強化する授業です。グループで十分な事前準備を行い、短期集中的に海外での活動を実践するところが留学とは異なります。私は通常の授業でもフィールドワークを行ってきましたが、海外でも活動

私の体験1

タイの学生に向かってプレゼンテーション



http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/guide/program/global_studies/



バンコク市内視察にて

GLOBAL STUDIES

グローバル・スタディーズ



民族衣装を着た日本からの参加者

グローバル・スタディーズは1年で完結する授業ですが、プレゼンテーション力をもっと高めたいという思いがあり、今年度も選択しています。学業も体育連盟ラグビー部も全力で打ち込むことが私のポリシーですが、より鋭い国際感覚を身につけることが今一番の目標になっています。

タイでの当日、私たちは作成した資料を丁寧に説明することを中心に発表。一方、タイの学生は身振りを交え、参加者に問いかけながら議論するというスタイルで、非常に衝撃を受け、多くを学びました。また観光とは異なる視線でバンコクの街を視察する貴重な経験ができました。

私のグループのミッションはタイのタマサート大学で、日本の学校でのいじめに関するレポートをプレゼンテーションすること。資料の整理にも時間をかけ、綿密に準備を進めました。



内野 翔太

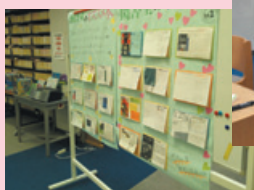
文学部人文社会学科
社会学専攻 4年
私立保善高校（東京都）出身



<http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/guide/cooperation/>

STUDENT LIBRARIAN

スチューデント・ライブラリアン



POPを作成する中大学生

杉並高校文化祭での展示



鈴木 美沙輝

文学部人文社会学科
国文学専攻 4年
私立中央大学杉並高校（東京都）出身

者を募り、杉並高校の図書室の利用促進策を企画・運営するものです。昨年度は本学から3名、杉並高校から7、8名の合計約10名で実施されました。具体的に行ったことは、①読書会の実施、②杉並高校文化祭での推薦図書の展示、③杉並高校の卒論作成の準備としての図書館利用方法案内です。やってみてわかったのは、例えば読書会では参加者の経験や生活環境で感想に差があり、必ずしも想定した流れにならないこと。また企画運営するメンバー同士でも、目的や意義を共有するのは簡単ではなく、根本的なコミュニケーションがいかに大切かということ。司書や学芸員にとって基本といえることですが、実際に体で感じることでできたのは大きな収穫でした。これから司書や学芸員をめざす人にはいい経験になることは間違いないので、より多くの人が参加する大きな活動に育っていくことを願っています。

私の体験2

リアルな図書館で得た貴重な体験

国文学を専攻し、近代から現代の文学作品を専門的に掘り下げる研究を行うとともに、博物館学芸員や司書にも興味があったので、それらの資格取得につながる科目も履修しました。スチューデント・ライブラリアンは課外活動のボランティアで、本学の学生と中央大学杉並高校の生徒から希望

民間企業から公務員、教員まで
独自の制度と施設でサポート!

将来を視野に入れた さまざまなサポート

SUPPORT CONTENTS

奨学金

学業成績優秀者向け奨学金/
学長賞・学部長賞給付奨学金、文学部給付奨学金
海外留学を支援する奨学金/
文学部短期留学プログラム給付奨学金、文学部長
期留学奨励奨学金ほか
学外における自主的な学びを応援する奨学金/
学外活動応援奨学金

海外留学

短期留学、交換留学、認定留学

資格の取得

教職課程
社会教育主事/学芸員/司書/司書教諭

1

意欲ある学生を
応援する多彩な制度

文学部では在学中の留学や調査活動、ボランティアなどに取り組み学生を支援するために多彩な奨学金制度を用意しています。また海外留学については米国、欧州、アジア各国の大学と提携し、安心して学べるようサポート。資格取得についても、教職課程に加えて司書、学芸員など4つの資格課程を設置しています。こうした制度を利用することで、公務員から民間企業まで幅広い就職実績に結びついています。

2

日々の学びを支援する
共同研究室とラウンジ

広いキャンパスの中でほっとできる居場所があることも、文学部の魅力です。各専攻の共同研究室では、自習、レポートや卒論の資料収集はもちろん、友人と語り合い、教職員に気軽に相談できます。アカデミックラウンジでは、グループワークや、奨学金や留学の資料調査、留学生との学生交流会も行われています。心が疲れたときはキャンパス・ソーシャル・ワーカーに相談できます。

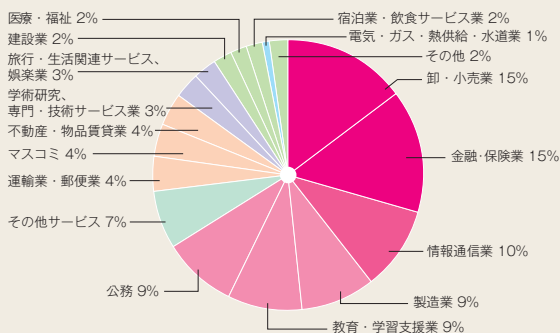


アカデミックラウンジには海外からの留学生が集い、交流を行っています。留学前の情報収集や語学の習得に役立っています。



13専攻それぞれに共同研究室を設置。原書を始め専門性の高い書籍を備えて学生の研究を支えるほか、読書会などのミニイベントも行っています。

[2016年度 文学部卒業生 業種別就職状況]



Topics

文学部生(2016年度卒業)の就職状況と傾向

文学部卒業生の就職先は驚くほど多方面にわたっています。文学部の就職先の主要業種は、**卸・小売業** **金融・保険業** **情報通信業** **製造業**となっています。また、他学部に比べて教育・学習支援業に就職する学生が多い傾向にあります。出身学部によって就職に有利・不利はありません。文学部で学んだ「知識」と「教養」と「課題へのアプローチ・スキル」は、社会で高く評価されています。

私の体験

My experience

文学部の制度を利用して道を拓く

社会情報学を専攻し、1年次で基礎的なことを学び、2・3年次ではアンケート調査やインタビューなどのフィールドワークを重点的に学びました。入学当初は、これほど外に出る機会があるとは思わなかったので、毎回楽しみながら学修してきました。

学業以外では「Caving Club」という洞窟探検のサークルに所属していたこともあり、授業とは違った視点の研究もやってみたくらい、3年次に「学部長賞給付奨学金」と「学外活動応援奨学金」に応募し、山口県の秋芳洞と岩手県の氷渡洞の比較調査を行いました。

た。実際に行ってみると、秋芳洞は見学者のためにエレベーターを設置し、入口を新たに作るなどかなり手を加えているのに対して、氷渡洞は自然の姿をほぼそのまま残し、見学の際には携帯トイレを持参して入るなど、観光資源としての考え方や利用方法が全く異なることに驚きました。きっかけは個人的な興味でしたが終わってみると、地域での観光資源利用について関心を持つようになり、今では大手旅行会社に絞って就職活動を行っています。

大学生活を通じて学んだことは「行動しなければわからない」ということ。数々のフィールドワークや奨学金を利用した学修のおかげで、想像以上の貴重な財産ができたと感じています。

私の体験 3

研究を掘り下げて 将来の道を見つける

SCHOLARSHIP

各種奨学金

http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/fees_schol/scholarship/report2015/



氷渡洞の見事な鍾乳石

環境に配慮しながら見学する



金井 渉
かない わたる
文学部人文社会科学科社会情報学専攻4年
私立帝京大学高校（東京都）出身

STUDY ABROAD

海外留学

http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/guide/program/study_abroad/



一人で旅行もしました



語学クラスにて

幼稚園から小学1年生の約2年間、父の仕事の都合からオーストリアで生活したことがあります。その時の印象が強く、大学ではドイツについて勉強し、留学もしたいと考えていました。

実際に留学したのは2年次の8月から3年次の8月までの1年間、ドイツの自由ベルリン大学です。学修面では演劇に関する授業を選択し、時間を見つけては観劇に出かけるようにしました。ドイツの演劇という堅そうなお印象がありますが最近斬新な発想の作品も多数あります。最も面白かったのは、観客自身がイヤホンを付け、聞こえる指示に従って街中を動きまわるという作品でした。また、ベルリンフィルのコンサートが3000円程度の学生価格で聴けたことにも感激しました。

私の体験 4

ドイツへの長期留学で 海外感覚を身につける

1年の留学を通じて私自身が変わったことは、自分の意見や主張をはっきり言葉にして伝える習慣が身についたことです。一般に欧米の人々には日本流のあいまいな表現は通じません。グローバルな感覚とは、自分の言葉に自信と責任を持ってコミュニケーションすることだと気づかされました。

現在、就職活動中ですが、海外勤務を命じられればすぐに対応できるくらいの経験はできました。留学は子どもころからの夢でしたが、将来に向けて転機になったとも実感しています。



中島 さくら
なかじま さくら
文学部人文社会科学科ドイツ語文学文化専攻
私立駒込高校（東京都）出身